

編集子から「会誌の趣味欄に…」との依頼を受け、気軽に応じたものの「さて自分の趣味は何だろう」と考え込む始末である。諸氏のように高尚な、あるいは他人に語るに値するものは持ち合わせていない。

会社員時代、社員プロフィールの趣味欄は「ゴルフ、読書」と埋めるのが常であったので、今回はゴルフに関し忘れられない一人のライバルでもある球友について綴ってみる。

彼は学生時代の同級生Mである。共に母子家庭ということから親しく付き合うようになり、月に何回かは下宿生活のMが我が家に来て食事したりしていた。建築家志望の彼は設計事務所に勤めた後、10年目に独立し東京・お茶の水で事務所を開設した。

40歳台半ば頃の京都での同級会の折、私とMの他に同好の士二人を加えゴルフを楽しんだ。それがきっかけとなり、その後年に一回、同じメンバーでの一泊ゴルフ旅行が始まった。学生生活を送ったのが京都だったから関西のコースが多かったが、伊勢志摩や高山、富士山麓から房総半島まで、4人が持ち回りで幹事役を務めた。ある年からは「1ラウンドでは物足りないから、二日で2ラウンドプレイしよう」とMが言い出し、現在も続いている。

ある時、M君が「おい中村、上賀茂神社の近くに素晴らしいコースがあるらしいが…」と言い出した。たまたま私の義兄がメンバーだったのでその年は京都ゴルフ倶楽部でのプレイとなった。Mは調子が悪かったらしくスコアはいま一つだったがコースには満足し「もう一度このコースでプレイしたいネ」と言っていた。その後も会うたびに「もう一度行きたい、プレイしたい」という言葉が彼の口から発せられた。2000年代になり、義兄から会員資格を譲られたので「いつでもプレイOKだよ」と伝えていたのだがお互いのスケジュールが合わずに機会に恵まれなく過ぎていった。

2004年の5月下旬、彼から「白血病で入院中」との連絡がありすぐに見舞いに東京へ行った。外見は以前と変わりなく元気そうであったが「医師の診断は余命1年」という予想もしていない言葉が彼の口から発せられた。その一ヶ月ほど前、彼の出身地である諏訪の御柱祭に「今回は6年後、その時にはお互いどうなっているか分からないから…」と誘われ、茅野市内の彼が設計した竣工直後のホテルで「風邪が治りきらないので、東京に戻ったら精密検査を受ける」と言っていたばかりだった。「年齢的に骨髄移植は無理」とのこと、抗がん剤投与を主体とした治

療が続いた。

その後、出張等を利用して月に1回ほど病室の彼を見舞った。抗がん剤の影響で少しつらそうな様子を見せたこともあったが、私には「必ず直してもう一度京都へ行きたい」と言うのが常であった。

発症後1年経った2004年5月、連休が終わって1週間後、夜10時ごろ携帯電話のベルが鳴った。彼の奥さんからで、「10日ほど前から容態が悪化し意識不明だったが、先ほど意識が戻り「中村さんへ連絡を…」としきりに口にする」とのこと。「明日、出来るだけ早く行きます」と答えたが、2時間ほど経った深夜に「先ほど亡くなりました」と再び連絡が来た。あくる日、昼過ぎに遺体と面会した。

「歳をとっても出来るだけ長くゴルフを楽しもう」という4人の約束は果たせなくなってしまったが、残った3人にもう一人加え、今年も6月に“2日で2ラウンド”プレイすることが出来た。Mには「あの世で仲間がいなくて寂しいかもしれないが、もう少し待っているよ」という気持ちでいる。



津軽半島に沈む夕陽、手前は陸奥湾

さて、来春には満65歳に到達する。在宅時間も増えることであろう。毎日ゴルフというわけにもいかないの、女房に嫌われないためにも何か趣味を見つけなければならない。現在、頭にあるのはデジカメ撮影。年に数回、会社時代の気の合う仲間と貧乏旅行を楽しんでいる。その際、気に入った風景を写し独断で「いい出来栄えだ」と思える作品を自宅に飾っている。カルチャースクールのデジカメ講座に参加してみようかな…と考える今日この頃である。